

③の段階

$$\boxed{1 \text{ はここにはいっている石けんの数}} \times \boxed{\text{はこの数}} = \boxed{\text{石けん全たいの数}}$$

$$6 \times 8 = \boxed{48}$$

この学年で指導される式は、数量を表わすものとしての式が主体である。問題の数量関係をことばなどを用いて式に表わすことにより、その関係をわかりやすく、また書きやすくすることがねらいである。

公式の形に表わすのみでなく、立式するときや、立式の説明をするときの根拠として、積極的に用いるようにさせることも大切である。

③ 検証授業計画

ア 単元名 いろいろなしき(2)

イ 目標

(ア) 未知の数量を□として式(加法・減法、乗法)に表わし、□にあてはまる数を求める方法を理解させる。

(イ) 加法と減法、乗法と除法の相互関係を理解し、それを活用して未知数を求めることができるようにする。

(ウ) ある数をもとにする数の何倍かを求めるときは、除法を用いるとよいことを理解させるとともに、乗法を基本形として、基準量、分量、全体量の関係を統一的にとらえさせ、基準量、分量が乗法の式から求められるようにする。

(エ) 対応する数量の関係を□、○を使った式に表わしたり、□、○で表わされた数量の関係について、その対応関係や変わり方を対応表にまとめて、考察する能力を伸ばす。

ウ 指導計画 略 (総時数 9時間)

エ 本時の指導 (1/9時)

(ア) 本時のねらい

未知の数量を□として加法の式に表わし□にあてはまる数を求めることができる。

(イ) 指導過程の一例

段階	学習活動・内容	指導上の留意点	仮説との関連
意識化	1. 問題を読んで話し合う。 ○ 各自問題を読む ・ 指名読 ○ 各自、条件や問いをぬき出す	○問題文は模造紙に書いてはり出す ○ 2名の児童に音読させる ○発表させて求答・既知事項をたしかめる	◎わかっているもの、わからないものをことばとして取りだしカードに記入する

予想	2. 結果と解決の手順を予想する。 ○ 何を求める問題か ○ どのように調べていくか話し合う ○ 机の上にあるカードをならべてことばの式をつくる ・ 発表する	○未知事項をしつかりおさえる ○今まで学習したことをもとにして考えさせる。 ○机間巡視をしながらおくれがちな児童に助言を与える	◎ことばをかいたカードを操作させて、ことばの式をみつげさせる
発見	3. しぼられた予想や解決の方法にしたがって各自解いてみる。 ○ 求答をたしかめる。 ○ 例題を解く	○全体と部分との関係を説明する ○線分図にもどってたしかめさせる	◎ことばの式をもとにして立式し、答えを出す
確認	4. 学習の整理とまとめをする。 ○ ことばの式にいろいろな数を代入して作問する ○ きょう勉強してわかったことをまとめる	○同じ数量にかたよらないようにまとめていく ○自分なりのことばで、それぞれまとめさせる ○加法と減法の相互関係をまとめる	
発展	5. 練習問題を解く。 ○ 次時の問題をつかむ	○今までのような方法で問題を解かせる	

④ 評定尺度

ア 事前テスト、事後テストは、同一問題とする

イ は持テストは、事後テストの数字をかえる。

ウ 問題は、次の内容とする。

○  $x+a=b$      $a+x=b$  (増加)